

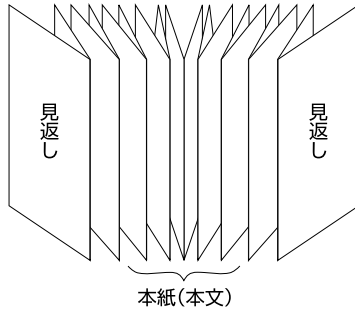
七・ハードカバーの絵本を作る

今まで述べてきた絵本の作り方は、一枚の紙を折り曲げて表紙をつけました。ここでは厚くて硬い表紙の絵本を作るための製本の方法を述べます。

表紙の芯にする厚手のボール紙を三つのパーツ（表表紙の芯・背の芯・裏表紙の芯）に切り分け、それを糊づけして作ります。上製本といわれる本屋さんの店先に並んでいるような本格的な製本です。複雑そうに見えますが、基本的なことをきちんと理解すると、大きな本でも小さな本でも応用できます。つぎに「ミニ絵本」と「デジカメ写真絵本」と「飛び出す絵本」を紹介しますが、すべてハードカバーで製本しています。

用意する材料と道具

- ・ 本紙（ソフトカバーの絵本と同じ画用紙）
- ・ 見返しの紙
- ・ 表紙にする紙（色画用紙、包み紙など）
- ・ 表紙の芯にするボール紙（紙の菓子箱を分解して再利用、など）
- ・ 小さな本は一ミリほどの厚みのボール紙でもいいですが、B5判の大きさより大きな本は二ミリの厚さのボール紙を使うとしっかりした表紙になります。



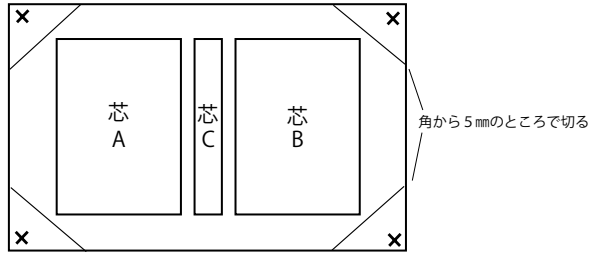
- ・厚いボール紙が手に入らない時は、薄いボール紙を貼り合わせて使います。
- ・伸びない包帯二枚（奈良に住んでいる人は未使用の「かやふきん」をお勧めします。一枚は表紙の背と左右のボール紙をつないで補強するために、もう一枚は本紙を貼り合わせたところがはがれないようにするために使用）
- ・三十センチのものさし
- ・カッターナイフ（大型のものをお勧めします）
- ・カッターマット

・糊と速乾性ボンド（糊は口紅型のほか、澱粉糊や合わせ糊などがあります。それぞれの性質を知り、使う場所に合わせて選んでください）

ハードカバー製本の手順（一） 中身（本紙）を作る

- 一. ソフトカバーの作り方を参照してください。
- 二. 絵を描いた「画面」の素材の大きさを揃えます。
- 三. 「画面」ができたら、右開き（文章を横書きにする）か左開き（文章を縦書きにする）にするかを決めて、裏にページ番号を書き、その順番に揃えます。
- 四. 「絵」が内側になるように二つ折りし、糊づけして貼り合わせます。見返しも同じように貼りつけます。

五. 貼り合わせた「画面」と見返しの背に糊（速乾性ボンド）を塗って、紙と紙



×…キリトル

表紙の芯の置き方

の間の隙間を埋めます。

六、糊を塗った背の上に包帯を貼りつけます。

包帯の寸法は、縦より上下五ミリずつ短く、横より一センチずつ長くとりま

す。乾くのを待ちましょう。糊が机などにつかないように注意しておきましょう。

ハードカバー製本の手順 (二) 表紙を作る

次に表紙の部分を作ります。ソフトカバー製本と違って、ハードカバーの製本は寸法をきちんととり、手順を間違わないようにすることが重要です。

一、表紙の芯にするボール紙を切り出します。

(一) 「本紙」の寸法を測ります。

測る箇所は、縦(天と地)・横(背と小口)・厚み(背側)で、ミリ単位で記録します。

(二) (三枚のボール紙(「芯A・B・C」)を寸法に合わせて切り出します。

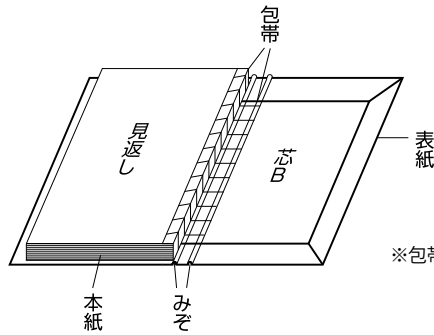
「芯A」と「芯B」は「縦の寸法プラス六ミリ、横の寸法マイナス二ミリ」

「芯C」は「縦の寸法プラス六ミリ、厚みプラスボール紙二枚分の厚み(一ミ

リと二ミリの間)」

二、表紙にする紙の裏側に、「芯A・B・C」を置く位置を書きます。

- (一) 紙の下端と左端から、それぞれ二十ミリ(二センチ)幅の糊しろをとります。
 - (二) 糊しろの内側の線に合わせて「芯A」を置き、鉛筆で位置を書きます。
 - (三) 糊しろと反対側の「芯A」の端に沿って、八ミリ幅の「みぞ」をとります。
 - (四) 「みぞ」の次に「芯C」を置き、鉛筆で位置を書きます。
 - (五) そこから、また八ミリ幅の「みぞ」をとります。これで「芯C」の両側に八ミリずつの「みぞ」ができました。
 - (六) 「みぞ」の端の線に合わせて「芯B」を置き、鉛筆で位置を書きます。
 - (七) 「芯B」の右端から、(一)と同じように二十ミリ(二センチ)幅の糊しろをとります。
 - (八) 鉛筆で位置を書いた時に、「芯A・B・C」の上端にも線を引いているので、その線から(一)と同じように二十ミリ(二センチ)幅の糊しろをとります。
- 三. これで、周囲に二十ミリ(二センチ)幅の糊しろ、中央に二本の「みぞ」をもった表紙の材料ができあがりしたので、不要な部分を切り離します。
- 四. 位置を描いた部分に糊をつけ、「芯A・B・C」を貼りつけます。
- (一) 糊は上下左右に、二十ミリ(二センチ)程度の幅でつけます。
 - (二) 糊は、分厚く塗らないで、薄くてよいから塗リムラのないように塗ります。
- 五. 中央の「みぞ・芯C・みぞ」の部分に糊をしっかりとつけて、包帯を貼りつけます。
- 包帯の寸法は、芯の縦より上下五ミリずつ短く、横より一センチずつ長くとり



表紙と本紙の組み立て

ます。四隅を四十五ページの図のように切りとります。

六、上下左右の糊しろを折り曲げて、糊をしっかりとつけて貼りつけます。

(一) 貼りつける順序は、上下↓左右の順です。

(二) 上下を貼る時に、左右の端を少し折り込んで貼ります。

(三) これで表紙の部分ができました。糊が乾くまで少し待ちましょう。

ハードカバー製本の手順 (三) 組み立て

表紙の部分がきたら、折り曲げて「本紙」を挟んで組み立てて接着します。

一、表紙の背(芯C)に沿って折り曲げ、本紙を挟み込み、馴染ませます。

二、表紙の右側の上に、背を内側に向けて本紙をのせ、見返しの上下左右に、

二十ミリ(二センチ)程度の幅で糊を塗ります。

三、左側のみぞにボンドを塗ります。この時、芯Cにボンドがつかないように注意してください。

四、そのまま反対側の表紙の部分を、本紙の上に伏せて見返しと接着します。

(一) 伏せる時に、表紙の部分の背と、本紙の部分の背との間に隙間がでないように、左手の指で表紙の背を押さえ、右手の指四本で本紙の小口を押し込みます。

(二) 軽く押さええた後、そっと開いて、見返しが「表紙の部分」の裏に均等に接

着していることを確認します。

五、もう一方も同様にして接着します。

六、親指の腹で「みぞ」の部分をそっと押さえてかたちを整えます。爪を立てないように注意します。

ハードカバー製本の手順（四）仕上げ

最後に表題（題名）と表紙のデザインを決めて描くと、手作り絵本の装丁が完成します。表紙の装丁ができあがったら、平らな台の上に背の部分をはみ出すように置き、上から大きな辞書、あるいは百科事典のようなもので、おもしろい一晩かけると糊がよくつき、表紙がびんと伸びます。

◆装丁から手を抜くな

《学生の感想より》

「題名や表紙の絵は、お話の内容が気になり思わず手にとりたくなるように考えられているのではないかと感じました。そして裏表紙にも内容に関連し、また、ストーリーの続きを連想させるような絵があり、本一冊の細部にまでこだわり作られていることがわかります。」

◆「読んで」と呼びかける表紙

本の体裁を整えるのを装丁といいます。つまり、印刷した紙をとじて表紙をつけ書物のかたちにすることで、造本上の意匠や技術のことです。手作り絵本に限らず、書物で最初に目につくのは表紙のデザインと題名であり、製本のできばえです。

普通、手作り絵本を作る時には、当然のことながら中身に全力を投入します。そのため、表紙のデザインと題名は後回しになり、悪くいえばつい手を抜きがちになります。しかし、人は普通、中身よりも先に表紙のデザインと題名に惹かれるわけですから、表紙のデザインと題名からも手を抜いてはいけません。

本屋や図書館でいろいろな種類の書物をたくさん見ることは大いに役立ちます。

◆糊とカッターは使いよう

作品を見ただけではわからない道具と材料についての注意事項を話します。

◎できるだけ身近にあるものを

道具も材料も、できるだけ身近にあるものを最大限に活用しましょう。高価な道具や材料が、よい道具・よい材料であるとは限りません。ただ、カッターと画面を作る用紙、台紙と糊は、良質のものを使った方がよいと思います。

◎カッターは危険物ではない

カッターは、正しく使えば決して危険物ではありません。

・カッターは、正しく使えば決して危険物ではありません。

・カッターは、正しく使えば決して危険物ではありません。

・カッターは、正しく使えば決して危険物ではありません。

・カッターは、正しく使えば決して危険物ではありません。

・カッターは、正しく使えば決して危険物ではありません。

・カッターは、正しく使えば決して危険物ではありません。

・カッターは、正しく使えば決して危険物ではありません。

◎糊はよくつく(どこにでも)

よい糊はよく接着します。そのかわり接着しては困るものもくっつけてしま

います。

・使う時は表面をコーティングした紙(広告チラシなど)を下敷きにするこ

・使う時は表面をコーティングした紙(広告チラシなど)を下敷きにするこ

・使う時は表面をコーティングした紙(広告チラシなど)を下敷きにするこ

・使う時は表面をコーティングした紙(広告チラシなど)を下敷きにするこ

・使う時は表面をコーティングした紙(広告チラシなど)を下敷きにするこ

・使う時は表面をコーティングした紙(広告チラシなど)を下敷きにするこ

- ・生乾きのうちにいじらない
- ・仕上げに軽くおもしろをかけておく

◎意外に役立つ三角定規

手作り絵本のできばえを格好よくするためには、用紙の寸法をミリ単位で測る必要がありますが、ちよつとした寸法を測るのに長い物差しを使うのは面倒です。また、用紙の隅が直角になっていないと歪みが出ます。ところが、市販の用紙の隅が必ず直角になっているとは限りません。

短い寸法をこまめに測ったり、用紙の隅が直角であることを確かめる時、小さな三角定規が意外に役立ちます。

この製本法は、絵本だけでなく写真のアルバムや資料の保存、雑誌・テキストの合本など応用範囲がひろいので、工夫してみてください。